

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 「知る」 ことの大切さ 」

栃木県 宇都宮大学共同教育学部附属小学校 6年 岩佐 葵

今年の夏休み、私は図書館に通った。土砂災害について調べるためだ。きっかけは、新聞に掲載された1枚の写真だ。令和3年7月3日、梅雨前線による大雨に伴い、静岡県熱海市伊豆山地区で大規模な土石流災害が発生した。上流部で起こった地盤崩壊が土石流化し、多くの住宅を巻き込みながら海までのおよそ1kmを流れ下った。大量の土砂が家や車などとともに町を飲み込み、多くの人命を奪った。その惨状に衝撃を受けると同時に、気になる点があった。それは現場付近に住む多くの住民が、「まさかここで災害が起こるとは思わなかった」と答えていたことだ。ではなぜこの地が災害に見舞われたのだろうか。

静岡県によると、被害を受けた熱海市は溶岩や火山砕屑物を主とした地質であり、谷底低地や山麓地は土石流的堆積物からなると記されている。また、急斜面が相模灘にのぞみ山腹の傾斜地にも市街地は拡大し、地形改変が進行したことも指摘されている。さらに土石流発生地点には開発による大量の盛り土が排水設備のない不適切な状態であったことも判明した。地盤が強固であっても斜面が急で堆積物を主とした地質で水を含みやすく、大雨が降れば土石流が発生しやすい悪条件が重なっていたことになる。また、土石流が発生した斜面が東に面しているため、南側から押し寄せる暖かく湿った空気が斜面にぶつかりにくく、例年は雨量が少ない地域だったことも災いした可能性がある。雨が少ない地域は緩い地盤が崩れずに残っていることがあり、雨量が少なくても土砂災害の危険が高まる可能性があるからだ。当時、災害現場に近い熱海市網代の観測地点では、3日午前3時20分までの48時間で321mmという観測史上最多の大雨が降り続いていた。大量の雨が斜面全体に浸透し、水を抱えきれなくなった盛り土が一気に流れ出たと考えられている。今回、新聞やインターネット、書籍などを調べたことで、現在まで大きな災害を被ることがなかった土地だが、造成などによる地形の改変や気象条件により、地域住民にとって想定外の災害が発生したということが分かった。しかし、災害現場周辺は土石流危険渓流のほか、土砂災害の発生しやすい土砂災害警戒区域にも指定されており、ハザードマップでも確認できた。土砂災害が発生する確率が高く、非常に危険な地域だと認識がもう少し高ければ、早期避難などの対応につながっていたのかもしれない。

土砂災害の危険性は熱海市だけの話ではない。日本は世界でも有数の土砂災害の多い国である。国土の6割を山間部が占め平地が狭いため、山の斜面や谷の出口など土砂災害の起こりやすい場所にも多くの人住んでいるからである。また、山が高く険しいため急流が多く、崩れやすい地質と相まって災害が起こる可能性が高まっている。雨や雪、さらには地震が多いことも要因の1つだ。私の住む宇都宮市はなだらかな平地が広がっているように感じるが、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域として415箇所も指定されている。私は改めてハザードマップで詳細な場所を確認し、記憶にとどめた。

今回、土砂災害について調べて再確認できたことがある。それは住んでいる地域の危険度を「知る」ことの大切さだ。そして、そのことを常に意識し、土砂災害の前兆を見逃さないことも重要だと感じた。熱海市の土砂災害においては、3日の早朝に複数の住民が道路に泥水があふれるなどの異変に気が付いている。この情報が周辺住民に周知されていれば、と悔やんだ人も多だろう。自然災害はいつ起こるか分からない。だからこそ、「知る」ことの大切さを忘れずに毎日を過ごしていきたい。そして、あなたの住んでいる地域は大丈夫ですか、と問いかけていきたい。